

てるびつ

1997.1.

No.3



京都府・海外研修KYOのあけぼの会



クライスト・チャーチにて



ウエリントンモンゴメリ牧場



海外研修KYOのあけぼの会

会長 田中 田鶴子

「てるびつと」も第3号を刊行する運びとなり、会員の皆様方並びに関係各位に深くお礼申しあげます。

本会は「KYOのあけぼのプラン」がスタートした平成元年に創設され、以来今回のニュージーランド・オーストラリアを訪問された皆様方を新会員に迎え、現在98名の会員数となっています。

本誌に掲載された平成8年度海外研修に参加された皆様方からの報告の中にも、初めて見たことや知ったこと、ご自身の今までの取り組みに確信を得たことなど、いろんな角度から気づきや学びがあったことが書かれています。参加された方々のすべての思いを表現しきれるものではないと思いますが、それぞれのお立場で今後の活動に必ずや活かされるものであろうと、期待するところです。

すでにご承知のとおり、1995年に第4回世界女性会議が開かれ、その中で採択された行動綱領に基づく取り組みが、国内外で積極的に行われています。

私たちが地域の女性団体のリーダーとして、個々の所属組織における活動はもとより、国際的な視野を持った当会のネットワークを活かしてさらに大きな輪づくりに努めて行きたいと存じております。

そのことを通じて、昨年12月に策定された国内行動計画「男女共同参画2000年プラン」や昨年1月に改定された京都府の「KYOのあけぼのプラン」の実現につなげていけるものであると考えております。



京都府女性政策課長

堀内 真理子

一昨年に北京で第4回世界女性会議が開催され、1年余が経過しました。この間、様々な分野で、行動綱領を具体化する取り組みがされてきました。

国におきましては、男女共同参画審議会から、「男女共同参画ビジョン」が答申され、12月には、西暦2000年度までの国内行動計画である「男女共同参画2000年プラン」が策定されました。また、労働省の婦人少年問題審議会から、男女雇用機会均等法の見直しを求める意見書が提出され、法制定の準備にとりかかることになりました。

京都府におきましては、昨年1月にあけぼのプランを改定し、4月には、男女共同参画社会づくりの拠点となる京都府女性総合センターが開館し、様々な活動を展開しています。

また、女性関係団体におきましても、北京会議の内容を学習するとともに、具体化に向けての活動が精力的に展開されています。

このように世界のうねりが地域のうねりとなり、また、地域の動きが世界の大きな動きに連動していく状況が起っています。

海外研修KYOのあけぼの会は、女性関係団体のリーダーである皆様のネットワーク組織です。皆様のネットワークの力と海外研修を通じて培われた国際的な視野は、男女共同参画社会の実現に向けて大きな力を発揮していただけると確信しております。

CONTENTS

ごあいさつ 会長 田中田鶴子 ●●1
京都府女性政策課長 堀内真理子

特集 ●●2
京都府女性海外研修
(ニュージーランド・オーストラリア)に参加して
田野 照子・杉浦 英子・一瀬 裕子
岡本カヨ子・長西 養子・森本 節子
山下よし子・田中あかね・前田 三子

ねっとわーく ●●5
連 帯 感 桜井 妙子
赤い貝殻 四方美代子
食生活 酒井 素子
介護を通じて思う事 小牧 恵子
綾部で広げるネットワーク 渡辺 有

トピックス ●●7
「第6回市民国際交流賞」授賞に寄せて
栗田 澄子

総会報告とお知らせ ●●8

表紙「てるびつと」は、京都府知事荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)「あけぼの」の意味です。

表紙絵について
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」したれ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものです。

特集

関空を夕方出発し、赤道をこえニュージーランドに午前9時30分やつと着く。やはり遠い機窓から見た景色、思っていたとおり、みわたす限りの牧草、羊の群がみえてきた。空港に降りたら、心なしか人々もゆったりとしている気がする。ガイドさんの話では、スロリー、ゆったり、にっこりだそうです。郊外を走ると、緑は多く、平屋建の家々はイギリス風で花を愛し個性ある庭づくりは見事、人々は親切で日本人に友好的。以前は輸出入もヨーロッパでしたが今は日本・アジア・アメリカと友好関係が広がっている。又観光に力を入れているとのこと。そのため後に訪問したポリテック（技術専門学校）日本語学科が人気だそうです。ホテルや街の店でも上手な日本語がとびかう、少々びっくり。外国の人がきれいな日本語を使ってくれれば日本を理解してくれるそんな気持ちでとてもうれしい。私の感動の1つ特に美しい街に出会った。美しい街というのはこんなにも旅人の心をなごませるものかと実感した。それはクライストチャーチで人口32万人、ガーデンシティーとも言われ世界で10番目に入るとか、納得。その市の女性議員さんに逢う。環境保護に取り組んでいるとのこと。「まちのクリーン活動」リサイクル等の仕事をしている。公共の場所・市が雇って掃除はしているが、子供も大人も落ちているゴミは拾う。環境問題を子供の時から授業として教えていくとのこと。環境について考えさせられた。オーストラリアの、女性問題について、女性のための委員会も100年目に入った。100年前は資産を持つ権利もなかったが皆で結合していくことが大事。現在80のグループが連携を取り、社会的に大事な組織と認められた。取組に興味、技術を持ち、国や社会に対してしっかりしゃべることが出来ることが大事とのことでした。まさに女性のエンパワーメントだと思った。高齢者問題も日本と同じ課題があり政府も働いている間にお金をプールしていく保険制度も考えているとのこと。基本的には年をとっていくことで差別をうけない。社会としてどうお年寄りを助けていけるか、公的なサービスを社会が行うことによって、人々の目がかわっていくことをのぞむとの話でした。私達も地域でどうぬくもりのあるネットワークをはつていけるか取組んでいるところです。（田野 照子）

そこはニュージーランド、広い広い緑の草原、空は青く太陽はさんさんと輝き、さわやかな風が頬をなでる。そんな中を私は一人で悠然と馬にまたがり闊歩する。夢のようなほんとの話。生まれてはじめての体験でした。「この馬、英語でないと聞くこと聞かないのとちがう？」なんてわいわい言いながらも、「止まってー」「そっち行っちゃだめー」など結構しっかりわかってくれたみたい。そう言えば退職村のジューティさんも、いかげんな英語でも何やら気持ちかわかりあえたらしく帰りにはかたい握手をして、涙を流してくれました。これに勢い付いて、やたらと「サンキュー」「アイムソオリー」なんて連発していたら「とんでもございません」で返事をされて「日本語も国際語だね」と感激したり……。

まさしく珍道中だったけれど、見るもの、聞くもの新しい発見ばかりでとても意義ある13日間でした。「百聞は一見に如かず」参加させていただいたことに感謝しています。

（杉浦 英子）

— 同窓会への感想文

見知らぬ国へ想いを寄せて事前研修から回を重ねることで不安と期待が堂々巡り…。ついに初夏の花が咲き乱れ緑なすニュージーランド・オーストラリアにやって来ました。

両国に於いて女性関係機関施設視察、懇談交流等の国際交流でメモ書した用紙を見るにつけ盛り沢山の研修内容が何う程に感心しております。良き体験学習の場であったことと、参加メンバーの友好の輪も広がり、有意義な楽しい思い出深いものとなっております。句でもって旅つれづれでしょうか……。

冬に発つ旅の目指しぬ夏の国
手土産は桜花風呂敷夏に訪ふ
茫洋と羊群れみて夏つづく
夏クルーズオペラハウスの金州城
南極の旅は白夜のクリスマス
振り仰ぐ南十字の星涼し
鼻合わすマオリの挨拶涙匂ふ

皆々様の御支援に大変感謝申し上げます。

（一瀬 裕子）

プリズベン・コアラ保護区にて



出発あいさつ



この13日間で一番関心のあったのはガイドさんだった。何人かがついてくれたが、この人たちのパワーには驚いた。海外で働く日本人を初めて見たからかもしれないが、日本という国を見直す気になったし、外国人女性をのびのびと働かすニュージーランドとオーストラリアに感心もした。これ等の人たちは、ただの観光案内ではない所もよく研究してきていた。ガイドさんが自分の言葉で話す時が一番興味深かった。ことに一番目のホソイさんは、前の日にちょっと自分が口をすべらせたことも次の日に勉強してきて、自分の言葉で話してくれた。離婚率が高いが子供の方はやはり悩んでいること。しかし事実は事実としてテレビのコマーシャルにも「明日僕はお父さんの家へ行って青いパジャマで寝ます」等とあることを話してくれたり、この国が多民族故の一つの言葉でも何通りも話すと教えてくれたり、海外の金持ちが特にアジア人が高い住宅を買うので住宅の値段がぐんぐん上がるとかこんなことで自分がアジア人で辛いこともあるとか。こういう何気ない話が私にはとても参考になった。（岡本カヨ子）

13日間のオーストラリア・ニュージーランド研修は見るもの、聞くもの、食べるもの、すべてすばらしい一言でした。

特に研修の中で団員の皆さんとの交流は、とても心に残っております。3回の事前研修で知り合った方々なのに、古くからの友人のような親交を結ぶことができました。福祉や女性問題と、考えや目的を同じくしている者同志のこまやかな心配りから自然に生まれすばらしい雰囲気の中で、充実した研修を体験できたことに心から感謝しております。

また、他国の様子を知り、日本との違いを知ることはとてもよい勉強になりました。

あらためて、これからの福祉の在り方、女性としての生き方など考えさせられた次第です。

（長西 養子）

期待と不安で一杯の海外研修、国外に出たことのない私は、出発の日が近づくにつれ、緊張感が増してきた。しかし、案するより産むが易い、という言葉のとおり、広大な牧草地で、のんびりと草を食べている牛、馬、ひつじ達、各家々には、季節がいつなのかと思う位、四季の花が咲き乱れ、マウントイーデンから見た景色は、まるでおとぎの国の様で、食物もよし、帰りたくなると聞いていた通りである。いろんな施設を訪問研修し、毎日農業に従事している私には、福祉についても、何の知識もなく、自分が、はずかしかった。研修を機に少しでも福祉について、知識を得ようと努力せねばと思った。そして、我々農家の後継者が、増えてくる様に、楽しくもうかる農業にせねばと思いました。どの施設どの分野においても、悩みは皆同じであると感じました。本当に楽しく、意義のある研修でした。ありがとうございました。

（森本 節子）

— 緑に魅せられた私

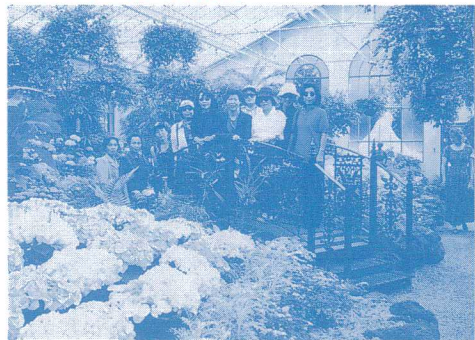
始まりはオークランドにあるマウント・イーデンであった。すでにあの緑が両側に目前にと広がっている。この地に立つのは昨年に続いて2度目である。だからあの緑がつかぬのである。この小山に立つと誰でも平等にこの街の全景を一望することが出来る。放牧されているので身が絞まりおいしいと言われるオーギービーフの素が群をなし、まとまっているようで孤独を楽しんでいるようにも見える顔つきでその巨体を転がしている。側を通り緑のじゅうたんを歩くとすぐ、ぐにやと柔らかい感触が靴底から伝わる。これには誰もが泣かされる。火山国でもある。噴火口が転がり込んできて私もには関わりのないこと二度と地上に戻れないかも知れないよと言わんばかりに大口を開けて座っている。なるい丘陵の下には高いビルと湾のブルーがうまく調和して都会的。反対側には赤と白の目立つ住宅がパセリの緑にサンドウィッチされて広がっている。同じ方向にマオリ族の記念樹であるワン・シリル・ヒルの丘が見える。自然との調和。主役はいつも緑である。

この国にいる間、丸々とした茶だんごや濃淡の緑の大木が迎えてくれると思うと心が弾む。クライストチャーチを流れるエイボン川の柳の大木の緑、それに続いて広がるハグレイ公園のゴミ一つない緑のカーペット、どこまでも続くので迷子になりそう。ポケてもこの緑だけは覚えていそうな気がする。絵心のない私は色で表現することも言葉で語ることも出来ないけれど、ニュージーランドの柔らかい緑とオーストラリアの少々硬い感じの野性的な緑、自然発火（ブッシュファイアー）で黒く焼けた木をおおい隠す強さを持った緑。ニュージーランドの緑とひと味違った色をしている。

今回の海外研修で見て体感したことは、緑の中で生活する人々の暮らしでもあった気がする。すっかり緑の虜になってしまった私である。緑は未熟・若輩の意とある。経験を一つずつ増やして年を取りたいと思う。

（山下よし子）

フィッツロイ・ガーデンにて



連 帯 感

桜井 妙子

舞鶴市では、今、女性センター設立をめぐって大きな話題を呼んでいます。

二十一世紀を前にして、男女がそれぞれの特性を活かしながら、自由な生き方を認め合える社会づくりこそ、私達が求めている課題です。

私達の女性連絡協議会は、平成六年十二月、民間団体として結成され、現在十七団体が加入し、延一万余の会員を有しています。この会では、グループ相互の情報交換や交流等を通じて、女性のネットワークを広げ、女性問題に対する共通認識の下に問題解決に向けとり組んでいます。私達が、活発に活動を進めていく上での拠点となる女性センターは、何としても必要です。現在、具体的な要求活動や、行政との話し合いを通じて、私達の目ざすセンター建設に生命を燃やしています。

なお、三月開催の第二回女性まつりの企画を担当し、昨年に勝るアイデアとパワーで成功に導きたいと考えています。

(京都府連合婦人会)

赤い貝殻

四方 美代子

毎年夏になると小さいザル一杯の貝殻を広げてみる。拾ったもの、貰ったもの、買ったもの、色も形も想いもさまざまである。

その中に赤と黄の絵貝で彩色された小さい貝がある。この貝は十四年前、セルビア共和国の手カヨバスアイ幼稚園を訪問した時、歓迎の記念品として幼児から贈られた品である。その国は三年半前、民族、宗教上の対立から内紛の未崩壊したユーゴスラビア連邦である。サグレブ、サラエボ等悲惨な争いの渦中の地名を聞くたび、多感な青年期にある当時のあの幼児たちに思いを馳せ、沈痛な思いを抱き一日も早い和平を切望したものである。

その国で私は育児休業制度をはじめとする様々な社会保障制度の中で、女性達があらゆる分野で活躍している実態に目をみはる思いであった。ようやく緒についた日本の男女共生時代、施策と並行して一人ひとりの自覚、努力が今こそ必要だと思っている。

(京都府連合婦人会)



マオリの人との交流



— 1996年京都府女性海外研修に参加して

13日間の長い研修、まして初めての海外ということで、緊張と不安と期待が交差する中で、ニュージーランドに飛び立ちました。

向こうは初夏ということで、澄み渡った青空、おいしい空気に思わず感動を覚え、車で走っていても、野原と牧場ばかりですれ違う車も少なく、面積の広さ・人口密度の違いを実感させられました。

見る物聞く物初めてのものばかりで、驚いたり、共感したり、いい経験をさせて頂きました。又、団員の皆さんとも交流させていただき思い切って参加して、本当によかったと思えました。(田中あかね)

ニュージーランド(クライストチャーチ)ポリテック訪問



オーストラリア・ゴールドコースト



9月10日の第1回事前研修に始まり、3回の研修を積み重ねて世界最初の女性参政権の施行、女性省が設けられている国を頭に置き、研修生9名と堀内課長を含む一行10名の女性が不安と期待を胸に出発いたしました。ニュージーランドのオークランド空港に降り立ち、早速バスで雄大な酪農地帯や町並みの視察、広々とした道路、高速道路は無料で家の周りには緑が多く、シダの木の葉が大きく成長し、あらゆるところに生息していました。バラ園や公園に行くと日本でも見られる花が大きく成長し咲いているのに驚きました。初夏を迎える季節で1日が四季の気温だそうです。先住民族であるマオリ族のマオリ語を使った地名が多くあり、マオリ文化を伝えているのだと感じました。マオリ族資料館を見学し、先住民の人達とも出会い、間欠泉や、ワイトモ洞窟に入り暗くて幻想的で神秘的な土ボタルの光りにうっとりしました。首都であるウエリントンには静かで清潔な町でした。マオリ族の女性たちとの交流で狭い集会所に通され、これらの女性に対する福祉、保健機関ということで組織が結成され、女性の教育、歴史、文化を大切に伝えていく活動などを学ばせて頂きました。社会福祉省の福祉課では、目的として人々を保護から福祉に代える、個人の自立を目指す福祉の補助制度、定住者であれば誰でもが制度を受けられることなど詳しく説明を受けました。クライストチャーチでは女性議員の方からは地域に根ざした活動を続けてこれ現在現在の地位にあること。田園都市として環境を重視した街づくり、ゴミのリサイクル、緑の多い街づくりと目標をもった活動でそのパワーに驚きました。ポリテック(専門学校)の視察では、高校卒業生からパートで働きながら専門技術を獲得するため夜間コースに通って学ぶ人達が多かった。年齢はさまざま夜間コースがあるのは広範な取組ですばらしいと思います。障害児者の乗馬による訓練を受けることでは、知的障害を持つ子供たちは学校の授業の一環として週1回通っている。精神障害の人達も情緒不安が安定してくる。重度の障害を持つ人も乗馬訓練を受けることができ、馬は機械と違って温かく命令もなく体温から伝わってくる温もりがあると説明をされ心のケア機能回復訓練に役立っている。訪問した時、中途障害者の女性が片手で手綱を持ち4年後のシドニーのパラリンピック出場を目指して乗馬の訓練をされていた。表情も明るく生き生きとして訓練をされているのを見学し心がなごむ思いをしました。パトリアジョーンズさんを囲んでの懇親会、青少年問題は男女ともに働く社会でも5才位までは子供と親とのコミュニケーションが大切であることを話されました。次にオーストラリアに移動し、カラビン野鳥園、コアラを抱っこしての記念写真や美しい小鳥、珍しい動物にシャッターを何度も押ししました。ウイメンズヘルスセンターは女性の健康管理を維持していくところで電話での相談を受け、専門的にカウンセリングする機関に付いているところです。ここではいろんな国々の女性たちが活動しておられた。シドニーでは(WGティラー・リタイアメントビレッジ)老人ホームの施設見学をし、入所者に対する3つの分野、①セルフケア②ホステル(サポーター)③ナーシングホームの具体的な説明を受け、入所者のみなさんとのティータイムやゲームを教わったり楽しいひとときを過ごさせて頂きましたが女性に対し男性の姿が少なかった。ナショナルカウンシルフォーウイメンは女性問題や女性の地位向上のために取り組んでおられ、局長さんをはじめスタッフの人達も高齢者がほとんどであった。十数年前より高齢化が急増しているため新しいシステムを考えているとのこと、サービスを受ける人が負担するという概念・組織の中で基本的な定年がなくなったこと。高齢者であっても体力的に障害が無ければその技術を生かして長く働ける。高齢者としての差別を受けられない法律ができている。老齢年金制度や特別制度の具体的な説明を詳しく聞いていると、例えば日本でも実施されようとしている、年金の段階的年齢の引き上げなど共通する部分も多くあった。簡単な研修内容の報告になりましたが、ニュージーランド、オーストラリア両国の福祉施策を研修するなかで、わが国の福祉や女性政策も決して遅れてなく実施されていることがわかりました。京都府は、各組織より女性の海外研修の取組を計画し実践して頂くことに感謝し今回参加して体験できたことを幸運に思います。

(前田 三子)

綾部で広げるネットワーク

渡辺 有

第四回世界女性会議に参加した綾部の女性四名が呼びかけ人となり、今年の夏「ナチュラネットワーク二十一世紀（NN21）」と名づけて仲間をつくり、十数名で発足しました。

時あたかも綾部愛ブリン見直し時期となり、大阪女性問題研究家の一人である森屋裕子さんの指導を受けてまとめ、十一月に市長へ提言したのですが、来綾の度に引き留めて夕方から数回にわたり、北京会議の意義・綱領・ジェンダー、リプロダクティブヘルツ・女性と政治等について学習させていただきました。去る十一月二十四日に綾部市女性による手づくりの愛フェスティバルⅡを開催しましたが（小宮山祥子さん招聘）、ホール入口にNN21のメンバーで、女性の地位向上を目指す紙芝居をつくって展示し好評を受けました。

今後、更に仲間の輪を広げ、学習も続けて五回会議参加を目ざしてエンパワーします。

（京都府女性の船同窓会）

トピックス

「第6回市民国際交流賞」授賞に寄せて

栗田 澄子

平成8年4月4日、京都新聞社文化ホールに於いて、国際親善に尽くす京滋の市民に、京都新聞社から贈られる「第6回市民国際交流賞」の表彰式が行われ



れました。

その式典で、はからずも私がその栄をいただくことになり、身に余る授賞に感激と幸せを肌で受け止めながら参列致しました。

しかしこれは私一人のものではありません。周囲の皆様のお力添えと行政機関のご指導ご支援の賜でございます。

また毎日報道機関からの情報提供により、日常の暮らしの中で、知らず知らずの間に行動の方向づけをしていただいたこともいえます。

振り返って見ますと今日まで、宮津市友好姉妹都市を始め、アフリカ・ヨーロッパ・オセアニア・アジア各国と友好親善や研修を深めてきました。各国の文化の違いから特徴がそれぞれ魅力的で、数多くの事柄を学ぶことが出来たことを感謝しております。

このように外国の方々と接し強く心に残っていることは、「人間として幸せになりたい」という言葉でした。やはり人と人との「絆」の大切さと、開発途上国も先進国も共に同一ライン上で健康であり、心の豊かさが実感できる社会だと思えます。

地球社会に生きている私達は、今何ができ、何をしなければならないか。次年度への自分の行動を考えている最中です。

今後更に皆様のご指導をお願いし、今回の授賞に対して重ねて厚くお礼申し上げます。



食生活

酒井 素子

京都府女性海外研修への参加対象幅が広がりました年に、機会を得まして参加させて頂きました。訪問国は、ロシア・サンクトペテルブルグ・フィンランド・フランスの三ヶ国でした。振り返り今思います事は、私達が当たり前のように食してあります農産物が如何に立派な物であるかと言ったことです。ロシア等を出して頂きました野菜・果物は選別に至らないと思えます程の物であった様に覚えます。

今年の米の出来具合は等と、気に留める事なく警戒に口にすることが可能な今の日本。飽食に慣れ過ぎた私達。自給自足が当たり前であったお米まですら外国から輸入しなければならぬ農業情勢。その農業の姿がそのまま日本の伝統や食の文化、そして子供の教育の面にも波及しているのではと思えます社会です。

この現状を、一人ひとりがしっかりと心にとめ安心して過ごせる明るく二十一世紀を迎えられますように、強く願っております。

（京都府農業士会 女性農業士部会）

介護を通して思う事

小牧 恵子

早いもので、私が海外研修の一員としてデンマーク・ドイツ・フランスを訪ねて、七年もの月日がたちました。今日でも私の心に深く焼きついて残っている光景があります。それは平等に供与されている豊かな福祉の中で安心して生活をされていた老人の姿です。

デンマークの初めて民間経営としてスタートしたと言う老人ホームを見学しました。高齢者、身障者精薄者等を対象として、デイホームとデイセンターが併設されており、近辺からの通院と入園者共々とても明るい雰囲気です。当時の日本のホームとは比較にならないものでした。私も当時痴呆の夫の父を介護していました。嫁として人様にうしろ指をさされない様世間の目をいつも気にし、父の意志等無関係。忙しい忙しいの連発、痴呆老人を抱えた気の毒なお嫁さんを演じていました。一人の人間としての介護を知りませんでした。

高齢者や身障者の人が人間として自立した生活をする為に私達が何を手伝い、又どの様に接すればよいか、じつと待つ事の大切さ、相手が何を望んでいるかを見極める事の必要性を学ばせてもらいました。研修後は父が生きている事のすばらしさが実感出来る様考え、ボケの進行をとどめられるかを考えられる様に気持ちも大変楽になり、世間を気にする事なく公的福祉を利用して頂きながら、両親を送る事が出来ました。

この体験を生かし、団体の中、時には友人に又知人と語り、「この町に住んでよかったと実感出来る様なふれあいの輪造り、地域づくりを目ざして頑張っております。

（京都府連合婦人会）

総 会 報 告

▶平成7年度事業報告◀

- 4月 婦人週間参加
- 5月19日 役員会・総会（ウイングス京都）
- 8月29日 第4回世界女性会議 於：北京市
2名参加 武田公子・山下弥生
- 9月4日
- 10月1日 KYOのあけぼのフェスティバル参加
- 12月 「てるびっと」編集会議
- 1月 「てるびっと」編集会議
- 2月 「てるびっと」機関紙第2号発行

▶平成8年度事業◀

- 7月5日 役員会 総会準備
- 7月23日 役員会 総会
(京都府女性総合センター)
- 10月20日 KYOのあけぼのフェスティバル参加
- 10月 「てるびっと」編集会議
- 11月 「てるびっと」編集会議
- 11月 新会員への説明会
- 1月 「てるびっと」機関紙第3号発行
- 1月 会員研修会及び見学会
- 3月 総会準備役員会
- 4月 次年度総会

▶平成8年度総会及び講演会◀

日時 7月23日(火)午後1時30分
会場 京都府女性総合センター第3セミナー室

★総会次第

議 題

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 来賓あいさつ
4. 議 事

- ① 平成7年度事業報告
- ② 平成7年度収支決算報告
- ③ 平成7年度収支決算書監査報告
- ④ 平成8年度事業計画案
- ⑤ 平成8年度収支予算案
- ⑥ 新入会員紹介(自己紹介)
- ⑦ そ の 他

5. 閉 会

ティータイム

★講 演

講 師 京都府女性政策課長 堀内真理子氏
演 題 KYOのあけぼのプラン改訂と

女性施策の推進について

お し ら せ

京都府女性総合センター案内

〈KYOあけぼのネットの巻〉

「こんなことは、誰に聞いたらいいの?」「今度の催しにふさわしい施設は?」など、活動をする中で生じる様々な疑問に答えるのが、「KYOのあけぼのネット(京都府女性情報ネットワークシステム)」。今回は、センター内の図書情報資料室に設置されている端末で、情報を引き出してみました。(ここなら無料でOK!)

最初の画面では、①催物情報、②施設情報、③人材情報、④団体・グループ情報の4つに分かれていて、③人材情報なら、氏名、職業、専門分野、関心分野から検索。具体的な人物に全く見当がつかなくても大丈夫。提示される選択肢に応じていけばよいだけ。

例えば、「法律の研究者」で、「女性問題を専門にしている人」というふうに大まかに検索していけば、それに該当する人材が呼び出されます。後は、各人材の詳細リストを参考に活動に生かして下さい。図書館で著書を探すもよし、思い切って本人に問い合わせるのもよし。とにかく、操作は簡単。画面の指示に従って、マウスを動かして…なんて言葉での説明よりも、まず百聞は一見に如かず。パソコンにちょっと触れてみたい、なんて人も試しにどうですか?ちなみに、通信機能のあるパソコンやワープロのある家庭なら、電話回線を通して「府民ネット」経由で情報を得ることも可能です。(府内どこからでも3分10円)。

☎075(691)5255 または、最寄りの府民ネットアクセス番号へ
(京都府女性総合センター図書情報資料室にて)

編 集 委 員 記

阪神・淡路大震災から2年が経過しました。あのすさまじい現状から少しずつ復帰している神戸を見て、こちらもがんばらなければならないと思います。震災を風化させるのではなく、これからみんなで力を合わせていかなければならないのではないでしょうか。皆様のご意見をお聞きできればと思います。

「てるびっと」も第3号を発行することができました。皆様のご意見の交換ができる場として今後もがんばって編集していきたいと思います。

発行責任者

海外研修KYOのあけぼの会
役員一同